

● 事例紹介 ●

Technology as a Tool
大阪学院大学の「情報化と学生支援」取組

中 嵐 康 二
(大阪学院大学ITセンター 主任)

一 はじめに

大阪学院大学で学内のすべてのコンピュータや情報コン
セントをつなぐ教育研究系ネットワークOGUNET (Osaka
Gakuin University Network) を整備完了したのが一九
九七年。このOGUNET整備をはじめりとして、本学では、
全学的に様々な場面を「情報化」することに努めてきた。
(勿論いまだその途上ではあるが。)

本稿では、本学の約五〇〇〇名の学生の学習、学生生活
を支援するための情報システム整備やこれに付随する取組
等を紹介するとともに、「情報化」することの意義につい

て改めて一考し、明示することを試みる。

二 設備情報化の一〇年

OGUNETにより、学生、教職員が学内のあらゆる場所
でネットワークを利用できるようになった九〇年代終盤以
降、本学はキャンパスの情報化を強く推し進めた。例えば、
学生向け総合情報発信システム「学内情報サービス」の整
備、インスタクターが常駐する学生向け会員制マルチメ
ディア施設「MELIOP (Media Laboratory Of Phoenix)」
の開設、世紀が変わってからも、当時では先駆的と言えた

LMS (Learning Management System) である教育支援システム「Caddie (キャディー)」の導入、館内全席情報コンセント設置など様々な情報設備を備えた新学舎二号館の竣工等、積極的な取組を進めた。

その後も、学外との接続回線の増強、ブロードバンド普及への対応としてVPNサービスの開始、ビデオ会議システムの整備のほか、五年間の運用経験に基づいてLMSのリニューアルを行うなど、情報化の側面から、学生の学習、学生生活を支援する環境の整備を図っている。



キャンパス風景

しかし、これらの取組は、あくまで「有効な手段 (‘as a Tool’)」とするための情報環境整備であり、この「手段」を如何に学生に有益なものとするかが最重要事項であると考えて諸運用を行っている。

情報、学生課からの奨学金情報、キャリアセンターからの就職情報など自分に関わる情報は随時メールで携帯電話に送られてくる。また、グラウンドの使用予約や落し物が届いているかの確認等を携帯電話で行うこともできる。このサービスの利用登録は任意であるが、ほぼ全学生が登録し、利用している。

■ 学生用ポータルサイト「WEB PATHOS」

キャンパスに来れば、学生はラウンジに設置したコンピュータや授業時間外に開放しているPC教室でインターネットを利用する。この際に最初に画面で目にするのが、学生用ポータルサイト「WEB PATHOS」。(名称は、本学のスローガンである「Logos & Pathos (理性と情熱)」から取



WEB PATHOS画面

また同時に、目まぐるしく進歩するテクノロジーに対して、環境をどのようにアップデートし、計画性のある的確な設備投資とできるか、という命題(難題)に、関連諸部局が横断・縦断的に連携して計画体制を組織化し、オンラインの決断を目指して鋭意合議している。

さて、次項以降では、これらの環境を利用した学生支援内容を紹介する。

三 情報化と学生生活支援

■ 学内情報サービス携帯電話版 (Pocket Phoenix)

学生生活全般に関わるところで情報化された支援としてまず挙げられるのが学生向け総合情報発信システム「学内情報サービス」である。このシステムは、Web版と携帯電話版(愛称: Pocket Phoenix)があり、履修登録情報等、各個人の情報に基づいた学内情報の閲覧と自動受信ができる。ここでは、①緊急連絡、②学内情報揭示、③休講情報、④試験情報、⑤履修情報、⑥就職情報、⑦施設予約、⑧奨学金情報、⑨落し物情報、⑩呼び出しメール、⑪個人スケジュール管理、⑫教員検索、がその対象となる。例えば、大学からの呼び出しメールや履修している科目の休講

たもの。ちなみに、教職員用ポータルサイトの名称は「WEB LOGOS」。

このポータルサイトでは、キャンパスで必要となる情報の殆どにアクセスできるようになっている。(主な機能は、【表1】のとおり。)

表1. 学生用ポータルサイト「WEB PATHOS」主な機能一覧

項目	内容
OGUMAIL	ウェブメールへのアクセス
学内情報 パーソナルサービス	個人スケジュールの管理
ヘルプ	LMS、VPNなどの利用マニュアル集
OGU-Caddie	LMSへのアクセス
図書館	蔵書等検索
シラバス	シラバス閲覧
休講情報	休講情報閲覧
試験情報	個人別試験スケジュールの閲覧等
就職情報	就職関連個人情報登録、講演動画等含む各種キャリア支援関連情報
学内掲示板	各事務局からの連絡事項閲覧
施設予約	施設の予約
落し物情報	落し物の検索
学年暦	学年暦閲覧
キャンパストピックス	学内のイベントなどの情報閲覧
クラブトピックス	試合結果等、各クラブの活動報告閲覧
ネットワーク情報	OGUNETに関する情報等閲覧
	など

なお、セキュリティを確保したイントラネットの中に掲載しているこの「WEB PATHOS」を学生が自宅等学外から閲覧するための手段として、VPNサービスを提供し

ている。これにより、自宅からでも学内情報にアクセスできる環境となっている。

■ 会員制マルチメディア施設「MELOP」

次に、会員制マルチメディア施設「MELOP」(以下、MELOP)を紹介する。

MELOPは、キャンパス内の二箇所を設置している、PC教室とは主旨を異にするコンピュータ施設である。

「Technology as a

Tool ～活きるITス

キルを身に付けよう」

を標榜しているMELOP

ではインストラクターが

常駐しており、会員(有

料。ただし、卒業後も利

用可能。)は授業の合間

など自分の都合に合わせて

この場所を訪れては、

スキルアップとクリエイ

ティビティに関わる自己



MELOP

の目標・願望を達成するために、テクノロジーを有効利用して自己研鑽に努めている。いわゆる「より高く動機づけられた学生の自己実現の場」という位置づけの場所なのである。

学生がMELOPに来てできること、それは、①自由利用、

②講習会受講、③グループ活動、である。学生はまずイン

ストラクターとの「個別カウンセリング」で「MELOPで

何を達成したいか」について確認し、具体的にどのよう

にすれば達成できるのかを一緒に考え、計画を立てる。計画

は随時再確認、修正を行う。よって、学生たちは進む道に

惑うことなく邁進できる、という仕組みになっている。

① 自由利用・・・自由利用では、MS Officeやインター

ネット利用のほか、ホームページ作成、DTP、3

DCGの制作編集、ビデオ編集等、インストラクター

の個別支援を受けながら自学を進めることができる。

② 講習会受講・・・講習会は三種類ある。アプリケーション

ションの操作について習熟するための「How to

講習会」(「Word基礎」など)、アプリケーション

を使って「何をするか」を学ぶ「実践講習会」(「プ

レゼンテーション」など)、「資格取得対策講習会」

(「MOS対策」など)があり、会員はいずれの講習

会も無料で自由に受講できる。

③ グループ活動・・・グループ活動はふたつ。デジタ

ルムービー制作・発表を行うDAV (Digital Audio-

Video) とMELOPのイベントなどの企画・実施を行

うMPG (Melop Planning Group)。

いずれも「テクノロジーを利用して・・・を実現す

る」というコンセプトの体現を目指すものである。

MELOPでは、今後も「コンピュータやテクノロジーを

使うことそのものが重要なのではなく、これを使って何を

するのが最も大切なのだ」ということを学生に向けて発

信していく。

四 情報化と学習支援

■ 教育支援システム「OGU-Caddie」

二〇〇六年度からリニューアル稼働を開始したLMSが

教育支援システム「OGU-Caddie」(「Caddie」から改称)

である。本学では、主として対面授業をより効果的に展開

していくための強力な支援ツールとして位置づけている。

(将来的にはeラーニング授業のためのツールとすること

まず前世代の「Caddie」利用数(教員数・科目数)の

推移を見ていただく。(【表2】参照。全体の約二〜三

割程度の利用に留まっていた。)

前世代「Caddie」は、科目ごとに教員

が利用登録申請を行ってはじめて利用可

能となっていた。また、受講生もその科

目への登録作業を行わなければならない、

という仕組みだった。この煩雑さを解消

するために、現行「OGU-Caddie」では、

時間割データと履修データと同期して全

科目、全受講生を一括で登録処理し、全

教員、全学生が「すぐに利用開始できる」

状態を創出した。これにより利用率も上

昇しつつある。

併せて、前世代「Caddie」に多く寄せられた要望事項

を精査して機能の整備を図った。例えば、細かく学習状況

を把握できるように学習管理機能を強化、提出と添削を効

果的に行えるようにレポート機能の強化、より柔軟な出題

を可能とするための小テスト機能の強化、などである。

表2. LMS利用数推移一覧

年度	2001	2002	2003	2004	2005
利用科目数	153	263	359	389	438
利用教員数	36	53	81	88	103

ある学生は、次週の授業に向けて課題を提出しようとしてくる。『前回の授業を振り返って』。まず「WEB PATHOS」から「OGU-Caddie」を開き、当該科目をクリックして画面を表示。画面から課題レポートを提出する。先生からは、前回の課題について、解答の事例と添削コメントが掲載されている。「なるほど、こういう考え方もあるのか。」疑問点は掲示板に投稿するか先生にメール、もしくは先生の研究室へ。次の日、次回授業に先駆けて講義資料掲載のお知らせメールが届く。早速画面からダウンロードして予習。そして、授業時には、先生は「OGU-Caddie」の画面をスクリーンに映しながら授業を進める。授業後、次の課題に取り組む…。授業内外の境界なく、先生とのコミュニケーションが取れる、そして、その都度疑問を解消できるから対面授業がより面白くなる、という良い



OGU-Caddie画面

循環を生むポテンシャルがここに見えている。

■ リアルタイム遠隔授業支援

本学では、二〇〇三年度からインターネット回線とビデオ会議システムを使ったリアルタイム遠隔授業を様々な形態で行っている。学外の講師のレクチャーをオンキャンパスで受講する形態、海外の教育機関と接続し、テーマベースでグループディスカッションを行う形態等、概ね一〇名前後のクラスで実施。セメスター制のもの、単発のものを含め、遠隔テクノロジーを利用する必然性を考慮しながら柔軟な企画運用を行っている。

受講した学生は、押しなべて学習意欲を刺激されている。一因として、この特殊な環境設定による新奇性が挙げられるが、より重要なのは、制約された環境がゆえに（カメラを通して一人ひとりを指名するので）学生個々がクローズアップされる効果があることだろう。受講後の学生アンケートにおいても、「通常のクラスよりも先生と話せる機会が多かった。」という声が聞かえている。

ここで今年度実施したある遠隔授業の様子をレポートする。その科目は「観光事業論」（M. H. マツノ流通科学部

准教授）。担当教員は国際センターの役職者であるため、公務で海外出張することが多々あったが、「休講にせずに現地から授業をできないか？逆に現地の情報を提供することとその有用性を示したい。」という要望があり、これを今日のテクノロジーを使うことで実現した形となる。

担当教員の出張先にはビデオ会議システムがなかったため、我々はインターネット回線と一般的なコンピュータとWEBカメラ、ヘッドセットだけを使うこととした。担当教員の音声・動画は無料ソフト「Skype」を使って送受信し、担当教員が現地で撮影した動画や画像は「Flickr」などの無料投稿サービスサイトに掲載して、キャンパス側のアシスタント（事務職員）がプロジェクト撮影した。また、予め受け取っておいた担当教員作成教材スライドもプロジェクト撮影した。シチュエーションの特殊性をより際立てて学習意欲を高めるために、ホールのロビーを利用。直角に立つ二枚の壁をスクリーン代わりにして、二台のプロジェクトで現地の担当教員と教材を同時に投影した（画像参照）。

さて、レクチャーを行ったのは、米国ミネソタ州から、仏国パリから、そして、タイ国バンコクから。米国、仏国については時差が大きく（パリからは、現地時間で深夜三



遠隔授業

時からの授業だった。）、担当教員の授業にかける熱意が学生に伝わる結果となっている。また、提示教材で、例えば「ルーブル美術館の展示作品」をウェブサイトで閲覧するのと比較すれば、現地にいる教員がツアーのような実況を交え、自身が撮影した写真画像をスライドショーで見せるのは、学生たちにとって強く惹きつけられる要因となっていると言えるだろう。

まだまだ技術的な問題や授業進行時の連携、TAの役割明確化等、改善すべき点は多くあるが、回数を重ねること

に改善され、学生は学習に集中し、楽しむことができるようになることは間違いない。(勿論、授業のコンテンツが遠隔接続という形態に適合されてセットアップされていることが大前提となるが。)

今後、世界中のどこからでも授業ができる、もしくは、世界中の教育機関と協同で授業展開ができる、という環境整備、教員との連携を益々実現していく所存である。

■教育・教材の情報化・デジタル化支援

学生がコンピュータや学内ネットワークを利用する際に質問や問い合わせができる先として、問い合わせ窓口「OGUNETヘルプデスク」(対応スタッフが常駐)、PC教室(補助員が常駐)、そして先述のMELOP(インストラクターが常駐)がある。学生は「WEB PATHOS」上に掲載しているヘルプを参照するか、これらの拠り所を頼ることができる。

他方では、DSSという教員向け支援窓口にて、教員のコンピュータ利用を支援している。学生を教育・指導する教員を支援することで、学生の学習を間接的に支援していると言える。

DSSは二〇〇二年一〇月の開設後より、広く多くの教員

のコンピュータ、ネットワークの利用に関する支援要請に応えている。時期にもよるが、多ければ一週間で大小合わせて一〇〇件以上の様々な支援を行う。

支援内容は多岐に渡っており、OGU-Cadetteにアップロードするための教材デジタル化の支援、授業中のOGUNET利用等に関する学生向け説明のためのスタッフ派遣、先述の遠隔授業のような企画実施に係るコンサルタント・実施支援、あらゆるQ&Aなど、持ち合わせる機能とマンパワーでできる限りのものに応えている。

これらの支援により、教育の情報化に係る教員への負担増大を軽減することは学生の学習支援という点でも大きな意味を成すと言える。

五 情報化の意味するもの

教育の情報化と比べてテクノロジーの進展は相変わらず驚くほど速く、この進展に常に追いつくことは容易な課題ではない。これは大学にとってもそうであるし、教員にも、学生にとっても同じことが言える。しかし、これに追いつくことが至上命題なのではない。また、追いつけるか否かが「教え、学ぶ資格」に関わるものでもない。この課

題は無視できるものではないし、大学として努力を怠らないことが前提ではあるが、まず持ち合わせた環境で何ができるのかを理解し、そこから最大限の結果を導き出すよう努めることが肝要なのだろうと考える。題目に冠した「Technology as a Tool」という言葉には、この想いを込めたい。

「情報化」という言葉の意味を不要に多様化(≒曖昧化)しないためにも、我々教育に関わる者はできる限り多くの機会にこのことについて議論し、発信していくべきなのだろうと考える次第である。